

地蔵崎園地周辺の植生

島根半島の海岸部はクロマツを中心とする森林でおおわれていましたが、1980年頃からマツクイムシによる被害を受け始め、多くのクロマツが枯れてしまいました。現在の森には、タブノキ (machilus) やヤブツバキ (Japanese camellia)、ネズミモチ (Japanese privet) などの照葉樹を多く見ることができます。

地蔵崎園地周辺は、対馬暖流の影響を受けており、多様な植物を見ることができます。そうした植物の中に、裏面に毛がたくさん生えているビワ (Japanese lute) に似た 15 センチぐらいの長い葉を持つ、ハマビワ (Japanese litsea) という常緑の低木があります。浜とは湾岸沿いの植物であることを示しています。このハマビワの東限は、島根半島です。

上からハマビワの葉、葉の裏側の毛